平成２４年度自己評価書

学校名　和歌山市立中之島小学校　　校長名　　湯川　泰成　　作成日 平成２５年２月８日

１　教育目標

豊かな心と学ぶ意欲をもちたくましく生きる子どもの育成 ・確かな学力に向けた取組の充実　・仲良く楽しく生活できる元気な学校の実現　・どの子も楽しめる体育学習の推進

２　本年度の取組についての評価

	開かれた学校	豊かな心	確かな学力	体づくり
P 重点目標	○地域の人材や保護者を進んで活用する。 ○情報を家庭・地域に積極的に発信する。	○豊かな体験活動・交流の充実を図る。 ○すべての教育活動を通して道徳教育を充実させる。	○授業改善を進め、国語力の向上を図る。 ○基礎学力向上の取組を積極的に行う。	○自発的、主体的に取り組む体育科学習を進める。 ○基本的生活習慣の定着を図る。
取組の状況 D	・学校便り、学年便り、保健便り等を保護者・地域に出し、学校の教育活動や保護者・地域への協力依頼等を積極的に知らせる。 ・ホームページの更新を増やし、内容の充実を図る。 ・図書・英語等の学校ボランティアを募集し、教育活動に積極的に活用する。 ・ふれあい給食や中之島作品展・運動会・授業参観等で地域の方との交流を積極的に行う。	・道徳の時間では、「心のノート」等の資料を効果的に活用し、指導を充実させる。 ・毎日のあいさつ運動や読書タイム等様々な場で、心を豊かにする取組を実施する。 ・幼保小連携教育による園児との交流を積極的に行う。 ・地域の方や保護者ボランティアとの交流や、縦割り活動等による子ども同士の交流を活発にする。 ・自尊感情の育成に向け、成功体験を増やすような活動を積極的に行う。	・「伝え合う授業」を進め、言語力・コミュニケーション力の育成に取り組む。 ・形成的評価や個に応じた指導等の授業改善に取り組む。 ・毎朝の「読書タイム」、漢字博士試験を実施する。 ・授業や宿題での漢字、計算の反復練習を徹底させる。 ・問題解決学習や体験学習を積極的に進め、「伝え合う授業」に繋げていく。 ・「うち読」を進め、家庭と教育の連携を深め、学力向上の一助とする。	・年間計画に基づいて、子どもが進んで楽しく取り組む体育科学習を実践する。 ・「きのくにチャレンジランキング」に参加するほか、体力づくりに取り組む。 ・生活調べやアンケートより、子どもの生活実態をとらえ、学校と家庭が連携して基本的生活習慣定着に向けて努力する。 ・食育を推進し、逞しい体づくりの一助とする。 ・教科等別研修会に授業提供し、本校体育科の深化発展を図る。
取組の成果と課題（評価結果C）	・保護者アンケートの「学校は様子をわかりやすく伝えている」について、肯定的な評価が９５％と高評価である。 ・児童は学校ボランティア（英語・図書・昔遊び等）との交流を喜び、積極的に参加している。 ・地域の方からは、交流を通して、子ども達や学校の様子がわかって、よかったとのお話をいただいている。	・保護者アンケートの「仲良く助け合う子の育成」が８７％と高評価であるものの、「一人ひとりが大切にされ認められる学校」が７６％と低くなっている。来年度は８０％を超える評価が得られるよう取組を行いたい。 ・たてわり活動、交流は児童が進んで取り組み、笑顔で楽しい時間となっている。しかし、事後の評価についての職員の話し合いが不足傾向である。 ・交流等の体験活動を大切にし、認めることを基本に自尊感情の育成に努めた。	・学力テストでは本校の６年生の学力は県平均よりやや高い（算数＋３．３、国語＋４．１理科＋２．８）状況にある。算数Ｂ（活用）は＋１２．１とすばらしい成績であった。 ・児童アンケートから毎日の勉強が「分かる」が８３％で昨年度より１％減少している。一方、「分からない」が１７％であり、保護者アンケートも同じような評価であり、まだまだ基礎的な学力定着の努力が必要である。 ・漢字の博士試験には真面目に取り組み、成績も向上し成果が出ている。	・教科等別研修会では、２授業を提案し、約８０名の参加者があり、協議会では熱心に討議をしていただいた。本校体育研究の評価・改善のよい機会となった。 　体育やきのくにチャレンジランキングには積極的に取り組み、体づくりは進んでいる。 　毎学期実施の生活調べには進んで取り組み、意識は高まっている。一方、保護者アンケートの「早寝早起き朝ご飯」は、ほぼできているが８４％にとどまり、啓発を必要としている。
次年度に向けての改善方法 A	・学校便り、学年便り、保健便り等の情報発信のさらなる充実を図る。 ・地域や保護者のボランティアを積極的に招く。 ・学校行事には保護者・地域の方を積極的に招き、交流を図る。	・全ての教育課程において、子どもの心を鍛え豊かにするための取組を行う。 ・あいさつ運動、公園の清掃活動を行う。 ・交流活動（幼稚園・保育所・高齢者との）・たてわり活動をさらに充実させる。交流はやりっ放しにせず、事後の評価・改善のための話し合いを行う。	・書くことを大切にした「伝え合う授業」を推進し、国語力（言語力やコミュニケーション力等）の向上を図る。 ・家庭と連携し、漢字・計算等の確実な習得を目指す。 ・学力向上に向け、形成的評価の活用や個に応じた指導の研修を積極的に行い、教師の指導力向上をめざす。 ・「うちどく」の取組を進める。	・体育科学習の研究を深化させ、楽しい体育での子どもの体力向上をさらに進める。 ・保護者への啓発を進め、基本的生活習慣の定着をめざす。 ・食育を推進し、子どもの体位・体力の向上を図る。

３　その他の課題

児童の登下校においては、保護者・地域の子ども見守り隊の協力、学校との連携により、安全が確保できつつある。また、年３回の避難訓練（地震・火災・津波・不審者対応等）や、緊急対応マニュアルの徹底により、安全な学校生活の確保に向けての取り組みを進めているものの、想定外の災害に備えての訓練も行っていく必要がある。